

令和3年度 第3学期終業式 校長講話

こんにちは。校長の山下です。

先程、表彰伝達式を行いました。表彰された生徒の皆さんはよく頑張ったと思います。来年度は更に表彰される人が増えるよう期待しています

それでは、令和3年度第3学期終業式にあたり5つの話をします。

まずは、新型コロナウイルス感染防止対策についてです。

新型コロナウイルスの国内初の感染事例は令和2年1月15日でした。あれから2年2ヶ月が経過しましたが、令和2年3月の全国一斉休校に対し、現在では「感染対策を徹底しながら学びを継続していく」という方針になっています。

もちろん、マスクの着用、手指の消毒、3つの密の回避等、基本的な感染対策の継続が条件となります。学校内で向かい合って話をしながら食事すること等もつての他です。感染対策を怠って学校生活を送ればクラスターが発生し、学びの継続どころか、部活動の中止や総体等への出場を辞退せざるを得なくなります。

これから暖かくなり、マスクの着用は息苦しい季節になりますが、皆さんの協力をお願いします。

次に新入生を迎えるにあたってのお願いです。

3月1日に卒業生を無事送り出すことができました。卒業生代表の経営情報科・〇〇〇〇君は、式典に出席していなかった在校生に対して「私たちは皆さんにとって良い先輩でしたか？」と答辞の中で問いかけました。〇〇君のこの一言はとても考えさせられます。「日南振徳高校は、上級生が下級生に対して行動で手本を示すのが伝統であり、それができていたかどうか。」を問うていました。

学校創立13年の伝統を引き継ぐのも、反対に壊すのも皆さん一人ひとりの行動にかかっています。間もなく新入生が入学してきます。皆さんには、新入生に対して「日南振徳で学ぶ者の姿」を行動で見せてくれるものと期待しています。

3つめに最近のニュースについて思っていることを話します。

今、ロシアとウクライナの間で紛争が続いています。ウクライナ大統領のゼレンスキー氏は、ロシア大統領のプーチン氏との対話を要求しています。その対話で解決する可能性は1%であるが、そこにかかけたいと発言しています。

ウクライナ情勢は世界が注目しています。長期化すれば、日本もかなりの影響を受けるようです。また、「第3次世界大戦への突入はあるのか」と言った憶測や、核兵器使用を心配する声もあります。第3次世界大戦への突入については、ウクライナのゼレンスキー大統領が「対話が失敗した場合にはそうなる可能性がある」と発言したものであり、核兵器使用については、プーチン大統領が「ロシアは最強の核保有国である」と発言したことによります。

平和の祭典である北京オリンピック・パラリンピックが開催された年に、一般市民を巻き込み、多くの子どもたちが犠牲になる戦争が続いている現状はとても残念なことです。ロシアのプーチン大統領は、国際柔道連盟の八段、講道館柔道六段の高段位を授与されており、「柔道を通して日本の伝統と日本の心を学んだ」と言っています。私は日本の心を学んだ大国のリーダーとしての自覚を疑います。プーチン大統領にとって「日本の心」と「行動」は別物のようです。

しかし、校訓「潔己・至道・振徳」の下で「人の人たる道」を学んでいる皆さんには、日南振徳高校で学ぶ者としての自覚を持ち、校訓を自らの心に刻み込んだ行動を期待しています。

4つめに成年年齢引き下げについて話します。

今年の4月以降、18歳になった人から成人となることは、2学期の終業式で話しました。約140年ぶりの法律改正となります。20歳以上の成人に許される飲酒や喫煙、公営ギャンブル等を除き、たいいていのことはできるようになりますが、自己責任でお願いします。法務省がホームページでわかりやすく説明していますので、まだ見ていない人は1年生を含めて、必ず見ておいてください。

なお、成人になると裁判員や検察審査員に選任されることがあります。それは裁判員や検察審査員は市町村ごとに「くじ」で選んで候補者名簿を作成するからです。検察審査員には、検察が不起訴にしたことが良かったか悪かったかを審査する役割があります。

裁判員や検察審査員は社会的に責任の重い職務であり、原則として辞退できないことになっています。ただし、高校生である皆さんは授業があることを理由に辞退することができるようです。それだけ授業が大事だということにもなりますが、高校卒業後も継続することですので、心の準備は必要です。

最後に読書について話します。

先程、多読賞の表彰がありました。1位となった経営情報科2年の〇〇〇〇君は1年間に150冊の本を読んだとのことですが、もっと読んでいるかも知れません。今は、本よりもSNSやユーチューブのような媒体を情報源として活用する人が多いと思いますが、読書はそういうネットとは全く異なる世界だと思います。

画像や動画の方がわかりやすいこともありますが、本は二度・三度と読み返すと新たな気付きがあったり、自分で想像する等、ネットにはない楽しみがあります。速読と言って、あっと言う間に1冊の本を読んでしまう技術を身に付けている人もいますが、1行1行、1文字1文字を丁寧に辿りながらでないとならない読めない人でも、その人なりの読書の楽しみを感じることができます。

また、「読書は頭を使うので疲れる」という印象がありますが、リラックス効果や癒やし効果は音楽よりも高いという研究結果もあります。脳は、液晶画面に表示される文字と紙にインクで印刷された文字を違ったものとして受け取るのかもしれませんが、朝の10分間読書を何となく退屈に思っている人がいるかもしれませんが、社会人になって読書の時間を確保するのが難しくなると、隙間時間を使った読書が有効になります。高校生のうちに、また、長期休業の機会を活用して、読書の習慣を身に付けてほしいと思います。

それでは、4月の始業式では新たな気分で高校生活を始められるよう、春休み中に1年間の目標を立てておくようお願いします。1年間、お疲れ様でした。

以上で講話を終わります。

令和4年3月23日

宮崎県立日南振徳高等学校 校長 山下 勉